

「津波避難計画作成・災害時要援護者対策モデル事業」及び

「避難所運営モデル事業」報告会の概要

平成26年2月13日（木）

三重県津庁舎6階会議室

「津波避難計画作成・災害時要援護者対策モデル事業」及び「避難所運営モデル事業」報告会を開催し、自主防災会・自治会のリーダーなど126名の方々に参加をいただきました。

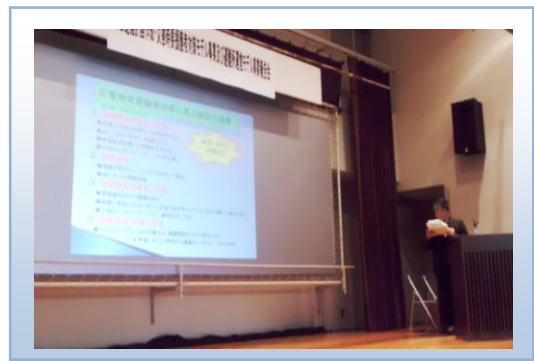
前葉市長からは「東日本大震災から3年経過しようとしている中、報告会に多数参加いただき、ありがたく感じるとともに、防災に取り組む熱意を感じ、更に力を入れなければならないと感じています。これからも引き続き地域とともに災害に強い津市に向けて取り組んで参ります。」と挨拶がありました。



「津波避難計画作成・災害時要援護者対策モデル事業」の報告会では、事業を実施した東千里、白塚東浜町・白塚三之宮町・白塚本町・白塚中之町、栗真小川町、結城東園、伊倉津町、浜浦区の各自主防災会等の代表から津波避難計画作成や要援護者対策に係るモデル事業の取組やその成果等について、発表がありました。



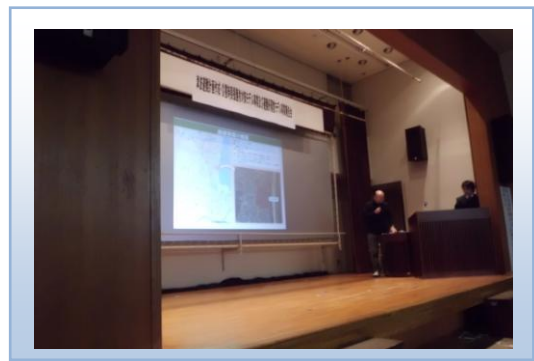
東千里自主防災組織の発表



白塚東浜町・三之宮町・本町・中之町自主防災会の発表



栗真小川町自主防災会の発表



結城東町自主防災会の発表

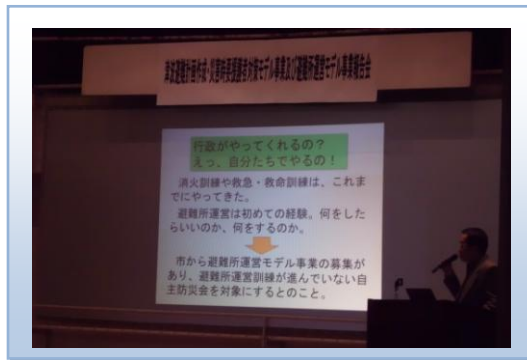


伊倉津町自主防災会の発表



浜浦区自主防災会の発表

また、「避難所運営モデル事業」を実施した千里ヶ丘自治会連合会、栗真小川町自主防災会の代表から大規模かつ突発的な災害に対して自主的に円滑な避難所の運営を行うために実施したモデル事業の取組やその成果等について、発表がありました。



栗真小川町自主防災会の発表



千里ヶ丘自治会連合会の発表

その後、三重大学大学院工学研究科の川口淳准教授から、「これだけの人々が報告会に集まり、それぞれの地域の取組みを自慢し、出来ている点、出来ていない点が把握でき、大成功だったと思います、何より地域の人たちが地震や津波について、自分のこととして考えた点が良かったと思います。また、津市の職員が強化集中年間として地域に入って押した点が良かった。津市役所と地域との関係が随分変わったと思います。」との講評がありました。

最後に、「今の取組が50年後の津市に係わってきます。現在取り組んでいることが、津市の将来のまちづくりにつながるということを意識していただき、取組みを進めていただきたい。」と総括がありました。



川口准教授による総括



川口准教授による総括